特集 気軽に立ち寄れる東北中国帰国者支援・交流センターを目指して

終戦時の混乱に巻き込まれた中国残留孤児。現在、東北6県には日本に永住帰国した2千人以上の中国帰国者の方が生活しています。戦後60年を過ぎ、中国帰国者の方々は高齢化し、また二世・三世の家族も同伴して帰国する方が増える等、その形態も多様化しており、言葉や生活習慣の相違から、就労を含めた社会的自立は決して容易なものではありません。

そこで厚生労働省は、中国帰国者の社会的自立に向けた中長期的な支援を行う総合的拠点として、全国7ヶ所に中国帰国者・交流センターを設置しました。

その東北地方の拠点が、8月1日に本会が委託を受けた「東北中国帰国者支援・交流センター」です。中国帰国者の実態や当センターでの支援の様子等、その一部を紹介します。

中国帰国者の実態

中国帰国者（以下、「帰国者」という。）の中には、言葉の問題や文化、習慣の違いのため日本の環境に馴染めず孤独感を感じている方がいます。年齢的に人生経験が豊富であるにも関らず、身近に行き来する帰国者仲間もいなく、散歩以外は家にこもりっきりになり、「友達が欲しい」と訴える方もいます。

また、日本語が得意でないことから、中国での技術を生かすことが出来ない方もいます。外国語習得は、本人の母語能力に比例すると言われ、母語以上の能力を身に付けるのは難しい状況にあります。高齢になるほど記憶力は減退していくため、繰り返しの学習が必要となります。そのため帰国者の多くは、言葉と年齢が妨げとなって就職が難しく生活保護を受けているというのが現状です。

さらに、帰国者の平均年齢は70歳を超えるため通院している方も多く、その中には通訳を必要とする方もいます。

このように、帰国者やその家族が日本社会で自立するということは、日本の体制や文化に適応することにほかなりません。しかし、それは異文化社会への適応という困難な試練を伴うことであり、私たちも帰国者世帯の身につけている言葉、風俗、習慣を尊重する姿勢が必要だといえるでしょう。

中国帰国者支援・交流センターの役割

国の施策として設置された中国帰国者支援・交流センターは、平成13年の首都圏中国帰国者支援・交流センター（東京）を始めとし、近畿（大阪）、九州（福岡）、東海・北陸（名古屋）、中国・四国（広島）と続きました。そして今年8月、北海道（札幌）と並び、東北地方の拠点として当センターが宮城県社会福祉会館内に設立され、委託を受けた本会が運営することとなりました。

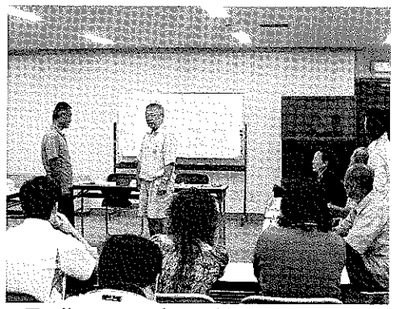
各センターは日本語学習支援・生活相談・交流事業等を行い、中国帰国者並びに二世・三世を含めたその親族等の自立を支援します。

なお、9月末時点での当センターの登録者数は75人を超えています。

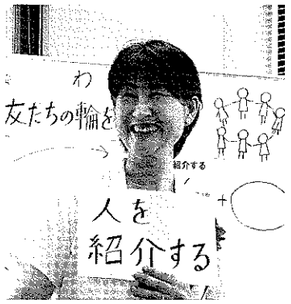
当センターではこんなことをしています

1．日本語学習事業

レベルに合わせて、日本語教室やパソコン教室を開いています。



▲買い物のロールプレイ（店員役とお客役）



▲講師の皆さんは優しくて明るい方ばかり

ある日の「日本語教室」をちょっと紹介

この日は、簡単な日常会話ができる程度の方が集まるコース「初級Ⅱ」。最初に、カレンダーを見ながら日にちの読み方練習。"4日と8日"って似ていて意外に難しい！思わず肩に力が入ります。その後は講師や受講者同士で対話を楽しみながら、形容詞について学びました。笑い声があふれながらも、「日本語を習得して仕事につなげたい」と自主的にノートをとる等、勉強熱心な皆さん。「いっぱい声を出したから皆さん発音が上手になりましたね」講師の拍手にまた来週の授業が楽しみです。

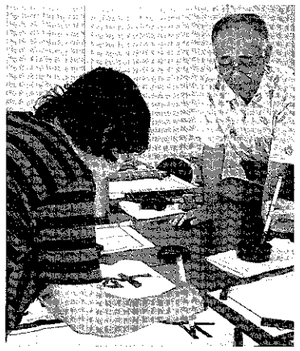
▲収穫が楽しみ！「野菜づくり教室」

2．交流事業

◎地域交流事業

健康増進や、地域住民・帰国者同士の交流のため、「野菜づくり」「書道」「太極拳」「異文化交流（手芸・歌謡・踊り・料理）」等の教室を開いています。その他、学習発表会やボランティア研修会も行います。

▲「手芸教室」ここはどうやるの？



◀墨っていい香り「書道教室」

ある日の「野菜づくり教室」をちょっと紹介

大人気の「野菜づくり教室」は仙台にある貸し農園で行います。スコップ片手に、「さあ土を耕しましょう！」と意気込んだものの畑作りに今一つ自信が　。そこでお隣の畑に来ていたおじさんに声をかけると　とても親切な方で、うね作りから種のまき方まで丁寧に教えてくれました。ちなみにこの日植えた種はシャンツァイとホイシアン（日本には無い、香りの強い野菜で餃子等に入れるそうです）。「ホイシアンできたら、どうぞ！」とおすそ分けの約束をする等、地域の方との新たな交流が始まったようです。

ある日の「手芸教室」をちょっと紹介

３人の講師（宮城いきいき学園生）と４人のボランティアさん（みやぎボランティア友の会）たちと一緒に作った、シャツの形をしたかわいいティッシュケース。ミシンに初めて触れる方もいれば慣れた手つきの方まで様々。「わかんない。難しいね。練習、練習」と、講師やボランティアさんへ積極的に作り方を尋ねる姿は、手芸だけでなく日本語の勉強にもなっているようでした。「かわいい！先生が一生懸命教えてくれたから使います」と自分で仕上げた作品を手に、皆さん満足気でした。

◎交流サロン

1階の入り口に気軽に立ち寄れるサロンを常設しています。どなたでも自由にご利用できます。お茶を飲みながら一緒におしゃべりしてみませんか。

3．相談事業

専門相談員を配置して、日常生活における様々な悩みや困りごと、就労に関する相談に対応しています。中国語で会話のできる相談員もおります。電話でも来所でもお気軽にご相談ください。

皆さんが気軽に立ち寄れる場として

当センターでは、生活に密着した支援を心がけています。生活の中でお困りのことがあったら、一人で抱え込まず当センターへご相談ください。仲間が増え、生活の幅も広がると思います。また、そのためには共に生活する地域住民の交流が不可欠です。先ずは1階にある交流サロンをのぞいてみませんか。

●●帰国者のお二人にインタビュー！●●

日本にはいつ来ましたか？
17年前に主人と息子と3人で来ました。
13年前に主人と日本に来ました。
日本の生活はどうですか？
日本人は楽しいし今は慣れました。センターができていろんな活動ができて楽しい。困りごとはセンターに来て相談しています。（当センターが開所したことによって）自分の気持ちを言える場所ができました。
日本語教室もあるし、みんなと勉強できて今は楽しい。以前は日本語がわからないし友達もできないし、心の中のことを言えず困っていました。センターでは友達がたくさんできたし先生も優しい。パソコンも勉強したいです。

【お問い合わせ先】
東北中国帰国者支援・交流センター
〒980−0014
仙台市青葉区本町3−7−4
（宮城県社会福祉会館内）
TEL022(263)0948
TEL022(223)1152（相談）
FAX022(715)8507
※月曜日・祝日は休館日です。